

伯耆町総合教育会議 会議録(この会議録は発言を要約したものである。)

召 集 年 月 日	令和7年10月27日(月)		
召 集 場 所	伯耆町役場 本庁舎 応接室		
開 会 時 間	午後4時00分		
出席者	町 長：小澤敦彦 副町長：岡本健司 教育長：箕浦昭彦 教育委員：大木寿之、羽田成夫、濱田真代、藤原美枝		
事務局等 出席職員	総務課：若林課長、川端室長 教育委員会事務局：本庄次長、岡参事、 乗本参事	会議録作成 職 員	総務課室長 川端泰子
提 出 議 案 等	1 開会 2 議題 (1) 各種学力調査結果の状況について【資料1】 (2) HK30 プラン 3rd ステージ・4th ステージについて【資料2】 (3) 伯耆町における不登校児童・生徒の状況について【資料3】 (4) 公立の義務養育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法等 の一部改正について【資料4】 3 その他 4 閉会		
閉 会 時 間	午後5時00分		

会 議 の 顛 末

若林課長	【開会】 伯耆町総合教育会議を開会します。
岡参事	【議題(1)説明】 「各種学力調査結果の状況」について、資料に基づき説明。
岡参事	小学校の国語算数について、全国平均・県平均より下回っている結果となりました。 中学校についても、同じく全国・県平均より下回っています。 資料の2ページ目ですが、質問紙調査について特筆すべきところをピックアップさせていただきます。 まず、町ぐるみの子育て環境についてです。 「地域の大人に授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることはありますか。」という質問に対する回答です。小学校6年生、中学校3年生いずれも大幅に高いポイントとなってい

	ます。 資料 9 ページは、全国標準学力調査結果となっています。 伯耆町は、こちらを年 1 回、定点観測しながら学力向上に向けているところです。 10 ページの棒グラフで、小学校 2 年生から中学校 3 年生までの全国を 100 とした学力の水準を表しています。 こちらも問題とか、傾向とかそういったものを各学校に還元して授業に反映させています。以上です。
若林課長	学力調査の結果報告について、ご意見がありますか？ 町長いかがでしょう。
小澤町長	伯耆町は母数が少ないので、年波みたいなものも反映されるのではないかと考えてみています。 ただ、県の平均が下がったということですが、県からは何か分析とかはあったのでしょうか。
岡参事	県からは、具体的にこうするというような内容ではなく、下がっている状況をどうにかするようにというメッセージは届いています。 ただ、本町の場合は、学年ごと、クラスごとに結果を返すことができるので、授業改善に直結しやすいのではないかと考えます。
小澤町長	岡参事が丁寧に分析されていてまとめているのがよくわかりました。 伯耆町は全国標準学力調査を使っていますが、県独自でされているテストは効果があまり見えていないということでしょうか？
岡参事	先日の新聞記事によれば、あまり効果が上がっていないということでした。
小澤町長	ということは、伯耆町は全国標準学力調査を使いながら、先ほどのような分析をしてもらった結果、今があるというふうに見てもいいのかもしれない。
岡参事	ぜひ、そういう PDCA サイクルを回したいと考えていまして、鳥取学力調査は残念ながら問題がわからない、CBT の関係で問題も算数と国語のみとなっています。 全国標準学力調査はほとんどの問題がわかりますし、5 教科あるので授業カリキュラムの中での授業内容の効果（学力の強弱）を 8 月にまとめて学校に返すことができます。伯耆町の長い歴史の中で培った膨大なこのデータを使わない手はないなと考えているので、この PDCA サイクルを大事にしていきたいと考えています。
小澤町長	最近、要因はいろいろだと思いますが、教員の質の低下が全国的に見られます。テストのための学習という意味ではなく、日々の授業の在り方というところからしっかり足場を固めていただいて、しっかりした分析により安心して授業に活かしてもらえたらいいなと思います。

羽田委員	学力をつけるのは、教師の指導力とか、教師の子供への向き合い方だったりすると思います。ですので、これまでもされているとは思いますが、先生方に研修の機会を持ってもらって、意欲をもって取り組めるような研究をされるといいと思います。自分の力量を伸ばせるような環境があればいいなと。働き方改革によっていろいろなことが狭まってきていて、子供たちを統括したり学校全体で協議をしたりする指導力や行事等の企画力なども弱ってきている部分があるように感じます。 学力調査については、国語、算数が主となっていて、そこについては力を入れるんでしょうが、その他の理科や社会といった科目に関するプロフェッショナルみたいな先生が育ってきていないように感じます。 先生方の力量がつくようなバックアップができたり、先生方がそういう気持ちに向かえるようになってほしいと思います。
藤原委員	学力調査の結果でいくと、伯耆町の子供たちは、心はすごく充実してるが、学力は残念ながら全国に及ばなかったということですね。 今の子供達は、英語教育とか、タブレットを使った授業とかいろいろなことをやらされていて。羽田委員が言われているように、一番大事なのは授業で、その授業をいかに面白いとを感じるかです。そのために先生方が研修に行かれたりする時間を確保してあげないといけないと思います。それができなくなっているのはなぜなのかということはわかっているので、解決していかなくてはいけないなと思います。
若林課長	では次に行きます。
岡参事	【議題（２）説明】 「HK30 プラン 3rd ステージ・4th ステージ」について、資料に基づき説明。
岡参事	HK30 プランについて、3rd ステージは令和 6 年度からの 3 か年ということになっています。工夫としては、三か年の最後の年度に「空白の年度」を設けまして、2 年度間でやり残したことを整理して取り組めるように意図しています。2 年度間が順調に進めば、4th ステージへ向けた準備の年度として活用できればと位置付けています。3rd ステージと同様に空白の年度を設け、学力づくりの展開に進むというところです。 いずれも、保小中一貫教育の土台のもとに計画された、地域づくりと学力作りということになっています。 続いて、3rd ステージから 4th ステージへの接続構想案についてです。4th ステージは令和 9 年度から 11 年度で、学力向上を志向する 2 年間としています。 学びの本質を考究できるものでありたいということで、各学校の負担感を鑑み、これまでの取組の延長線上に校内研究として学力向上を志向できたらと提案させていただいています。標準学力調査、一貫カリキュラムの活用

	については継続していくということを考えています。 主に中学校では、現在利用している「タブドリ LIVE」というドリルをさらに日常的に利用していくことを想定しています。 タブドリライブの機能として、標準学力調査の結果を反映させることができ、苦手な問題を選んでくれるような機能もあるので、問題集を購入する必要がなくなることにも期待されます。その他にもいろいろな機能があるので、使い方によっては先生・児童生徒お互いにメリットのある取り組みにつながると考えられます。 次に、学力・学習チャレンジアプリについてです。このアプリは滋賀大学の教授が作られているもので、全国学力調査の過去問を CBT 問題にアレンジされています。 学びは自分の成長を目指すことであり、テストは自らの学びをみとるものであるという理念のもと、学びの本質に向けた設計となっています。 例えば、第1問を解くとコンピューターが自動的に次の問題を選んでくれる機能では、第1問の結果によって、簡単すぎず、難しすぎない問題が提供されることで、考えることをあきらめない、モチベーションを保っていられるというような効果があります。 令和9年度から、全国学力調査が CBT 化されるので、その練習にもなり、かつ全国学力調査の練習にもなり、非常にメリットが大きいのではないかと、校長会でも説明させていただきました。 12月にある教育 DX 推進担当者会でもこの内容について話をさせていただく予定です。
箕浦教育長	今年度は、教育振興基本計画の見直し時期となっていますので、この HK30 プランを全面に出すような形で改定を進めていこうかと考えています。
小澤町長	HK30 プラン 3rd ステージに関することになりますが、子供議会とまではいなくても、何かの形で発表の場をもてるといいかなと思っています。 中学校3年生の総合的な学習の出口として、町民の皆さんも中学生の意見とかを求めているので、例えば、各学校のグループ学習発表を議員さんに聞いてもらって意見交換するとか。議員さんの方から教育委員会に働きかけてもらって一緒になにかされるとか。いろいろなやり方があるとは思いますが。
乗本参事	この件については、昨年から出ています。伯耆 I (あい) 学習の中学校の成果を発表するという部分があり見えていなかったもので、議員さんに来てもらうという提案もあり、学運協で内容を協議したいと提案もしています。 ただ、中学校が成果発表の仕方に困っているということや、教育課程の関係で難しいというところもあるようです。 ただ、発表については変えていけないといけないところではありますが、単元自体を大きく変える必要があるかもしれません。職業に特化した内容になっているので、町への提言にまではなかなか行きつきにくくなっているよ

	うに思います。 溝口中学校の教頭先生が今年、米子市から赴任されてきて、町の活性化イベントの一つとして、子供たちに企画させるという取り組みができたらと学運協の際に言っておられ、総合的な学習に手を入れればという話がありました。現段階では伯耆 I（あい）学習の年間計画の確認ができていませんが、年度末の段階で改定できればいいと思っています。
小澤町長	令和 8 年度が空白の 1 年間になっていますので、そこで残された課題をやって形を作れば、4 th につなげることができると思うので、検討してもらいたいと思います。
濱田委員	中学校でコーディネーターをしています。1 年生が職業講和、2 年生が職場体験を実施していて、地域のつながりを持った状態でいるところに 3 年生になるとやはり高校進学を視野に入れていく必要があるため、なかなか地域の中でというのが難しくなってきます。3 年生の生徒が地域に対する想いなどをどのように繋げながら、高校選択に絡めていけばよいのかと考えていました。中学校 2 年間で地域とつながってきたところを途切れさせずに高校に向けていくことができればいいなと感じています。
箕浦教育長	3 年生の単位として、町長に提言するという単位があります。伯耆 I（あい）学習のまとめとして、地域で学んできたことを提言という形でグループでまとめて、参観日にプレゼンする。これに議員さんたちにも来てもらえればいいのではないかと思います。
小澤町長	受験のこともあるのでいいタイミングで実施してもらえたらいいなと思います。
乗本参事	【議題（3）説明】 「伯耆町における不登校児童・生徒の状況」について、資料に基づき説明。
乗本参事	コロナ化を経て、中学校の不登校数が二桁になり、令和 6 年度にはさらに増えています。要因として、転入してきた子が転入前から不登校であったり、小学校のころから不登校であった子が中学校に上がってもなかなか改善できていないなどが考えられます。ただ、新規も増えている傾向にあるので、とにかく新規を増やさないよう早期発見早期対応すること、現在不登校になっている子に関しては、継続してつながりをもってもらうことを意識して学校は取り組んでいます。 それとやはり、コロナ禍で保護者や教員も欠席への壁が低くなったように感じています。休みやすくなったというか、緩んできたように感じます。そのため、学校から毎月提出してもらっている報告書の様式を変えるなどして、一定期間欠席した子に関しては必ず担任だけではなく学年、学校レベルで会議をもってもらうような「見える化」を実施しています。また、SSW を通じて会議開催について、積極的に声掛けをしてもらっています。 現在対象となっている児童生徒については、家庭訪問や夕方登校、相談室

	対応など必ず連絡を取りあっていますが、数を減らしていくのは難しいと感じているところです。 令和８年度には新事業として、岸本中学校に校内サポート教室設置をあげています。溝口中学校は「支援センターえがお」が学校近くにあることで、連携ができますが、岸本中学校の生徒が通うのは大変ということもあり、岸本中学校内での設置を考えています。
小澤町長	やはり、新規を出さないということが大前提、大原則で、とにかくそのサインを見逃さないということが大切ですね。原因がわからないところもあるので、連携してしっかり寄り添っていくということと、「新規を出さない」という校内での意識共有ですね。教員がちょっと気を緩めるとすぐ不登校が出てしまうので、フリースクールなどに通って頑張ることもいいですが、引きこもってしまうことのないようにしていくといいなと思います。 今、学校の欠席をグーグルホームを使って連絡するようになっていますが、弊害とかはどうかでしょうか。
藤原委員	グーグルホームを使って欠席連絡をするというのは、それだけ先生が忙しくなっているということでしょう。 教育委員をしていると、先生がどれだけ忙しいのかもわかりますし、仕方のないことかなと感じます。 ただ、グーグルホームも先生に伝えたいことを書き込むことで、学校からも折り返しがありますし、学校に電話がつながるのが一応６時までとなっていますが、留守番電話になっていても連絡くださったりしますので情報は学校で共有されているように思います。 一方で、不登校になってしまっている場合だと、この方法で連絡を取るのはどうかと思ったりもします。町長が心配されるのも一理あるかなと思います。
小澤町長	学校と保護者がきちんと共有できていれば、そこが一番大事だと思いますので、そこに気を付けてもらえればいいなと思います。
大木委員	教育委員会の中で話がありましたが、学校の先生の数が少なくなっていて、不登校の子がいても支援する先生がいらないという。教育の質の問題もそうですが、やはり先生の数足りていないということで学校側も本当に大変だろうと思います。先日学校訪問に行った際にも大変さを感じました。
羽田委員	自分の経験で言うと、生徒が休んだ時には、担任は家に電話するなどしてできるだけ本人と直接話をするとか、休みが続くようなら手紙を書くなど働きかけが大事だと思います。 ただ、学力如何についても先生次第ということがあって、働き方改革などもあるので非常に荷が重いと感じます。
本庄次長	【議題（４）説明】 「公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法等の

	一部改正」について、資料に基づき説明。
本庄次長	令和８年度から、働き方改革の一層の推進のため、業務量管理・健康確保措置を実施するための計画を教育委員会が作り、総合教育会議への報告が義務付けられます。総合教育会議を通じた連携協働を図っていくというのが目的となっています。
若林課長	議題は以上ですが、他に何かありますか
小澤町長	まだ先の話ではありますが、教育指導要領の改訂について、各教科の時間数を各学校で調整してもよいみたいな指針が出されています。 学校の負担が増えることになりそうですし、教育委員会として何か考えを持っておかないと、成績の悪い教科の時間数を増やすというような短絡的なことになりかねないと思います。外国語活動も、学校の裁量でという感じで始まりましたし、学習内容の精選をしないで調整をしていくのは大変だろうと。改訂までのあと５年の間に、教育委員会としても議論の必要があるように感じます。
若林課長	時間になりましたので、以上で総合教育会議を終了させていただきたいと思います。 ありがとうございました。